

**<教育利用> ②「国語科における活用場面とその効果」**

・国語科の各指導場面に活用した際の学習効果を比較検討

**【活用場面】**

- ①小論文指導（課題の提案、題材集め、添削）
- ②授業内で使用する例文の作成の補助
- ③記述問題等の採点
- ④小テスト作成

**【活用場面ごとの効果と課題】**

- ①○多様な分野からの小論文問題が提案された。  
△機械的であるため、実体験や具体例などを盛り込んだ模範解答の提示には課題がある。
- ②△古典分野の重要語句や句法を生徒に理解させるため、いくつかの例文の提示を求めた。だが、古典分野は誤ったものを提示しがち。
- ③○生徒から提出された記述問題の解答を瞬時に採点できる。（ただし短文に限る）より細かい採点基準の指定により、長文の問題においても効果的な採点が期待される。  
△生徒からの提出がデジタルであることが前提。採点の条件づけも細かく覚えさせなければならないので、負担感は大きい。
- ④○ワークの問題を把握させた上で、ランダムに出題させるのには大変便利。